

ハンドブック
ワンポイント
レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

国体のブロック予選を観戦に行った際に少し気になることがあったのでお尋ねします。

マッチ中に監督からベースライン付近のボールの落下点について、痕跡確認の質問がなされた際のことです。副審は正審から痕跡の確認をするように依頼を受けてボールの落下点付近へ行き、落下点の状況を確認した後、その痕跡を足で消して正審へ確認の結果を報告していました。私は「ベースラインは正審の判定区分のはずなのに、なぜ副審は正審のほうを見て指示を仰がないのだろう?」と感じました。その時に見た試合の審判に限ってそうなのかとも思いましたが、2日間観戦して別のいくつかのコートでもそのような様子を見かけました。もしかしたらボールの落下点の痕跡確認の方法について、そのような申し合わせが審判団の中であったのかもしれませんが、もしそうならそれは正しい方法なのでしょうか? そのブロック予選での副審の所作(痕跡確認をする際の副審の動作なども)は、どのコートもキビキビした動きでよかったのですが、痕跡確認による再判定のやり方については違和感が残りました。

Answer

アンパイヤーは自己の判定区分のボールの落下点が、イン、アウト又はフォールトであるか確信が持てない場合は、ボールの落下点の痕跡を確かめてから判定することができる。正審は副審に痕跡の確認を依頼することができる。

平成27年の国体も各都道府県による熱戦が繰り広げられた末、開催地和歌山県の総合優勝で幕を降ろしました。国体は各都道府県の名譽を背負っての大会ですので、出場される選手の皆さんは自身の想いのみならず、地元の期待も一身に受けながらブロック予選や本国体へ出場されていることと思います。アンパイヤーもまた選手と同様の緊張感を持ってその任に当たられていることでしょう。

さて、再判定をするに当たってベースライン付近に落下したボールの痕跡確認を、正審から依頼された副審の行動手順を一緒に考えて見ましょう。

正審・副審ともそれぞれの判定区分があり、他のアンパイヤーの判定区分については、アンパイヤー間での小さなサインまたはアイコンタクト等により判定を補うことが望ましく、研修会等ではよく聞く内容です。

ところで、今回は監督さんから痕跡確認の依頼があり、正審は副審にボールの落下点の痕跡確認を依頼し、副審がボールの落下点へ行って落下点の確認をした後、その痕跡を足で消して正審へ確認の結果を報告しています。ここで注意するとともにお願いしたいことは、落下点の状況を

確認し正審に確認の結果を報告して、監督やプレーヤーが納得了解した後に痕跡を消すことが正しい手順で、痕跡を消して正審に報告していることは、痕跡の確認が正しくても、手順から言えばよくなかったと言えます。消してしまうと確認の痕跡がなくなり証拠がなくなるからです。競技規則第40条[解説17] 3. でプレーヤー(監督またはコーチを含む)がボールの落下点の痕跡を消すことを禁止していることからご理解いただけるものと思います。さて、質問者は「ベースラインは正審の判定区分のはずなのに、なぜ副審は正審のほうを見て指示を仰がないのだろう?」と疑問に感じられたようですが、正審は自己の判定区分の判定に迷う場合や、プレーヤー等により落下点を確認できない場合には、副審の意見を求めて判断することや、副審に痕跡の確認を依頼することができるのはご承知のことと思います。したがって、アンパイヤーは自己の判定区分だけでなく、必要な場合には他のアンパイヤーを補佐できるように、常にボールの落下点も注視するよう心がけていなければなりません。このようなことからベースライン付近の落下点も副審は確認しているはずで、ですから副審

は落下点の確認をベースライン付近から、落下点を指さし正審とやりとりしながら正審の指示に従って確認するのではなく、副審自身で落下点を確認して正審にその状況を報告します。副審が落下点がよく分からない場合や判断に迷う場合は、正審が審判台から降りて自ら痕跡を確かめて判断することになっています。今回副審は正審から痕跡確認の依頼を受けたとき、落下点に注目して行動する間に正審とのアイコンタクト等ができており、何の心配もしないで落下点の確認を済ませたと受け取れます。とこ

ろで、慣れていない副審が落下点付近に行って、正審の指示待ちのように指さしをしている光景は、見ているものにとって不信感を与えることになりませんか。質問者はアンパイヤーがキビキビした動きで良かったと評価されています。今回の再判定の違和感を見る方の審判技術に対する受け止め方によってさすがと思われるか、説明によってなるほどと思われたかの違いでしょう。今後ともアンパイヤーの些細なことでもよいので気をつけて見ていただき、すばらしい審判ができるようにお互い勉強しましょう。

【関連規則】

ソフトテニスハンドブック

競技規則

第40条【解説17】3.

審判規則

第8条 アンパイヤーの判定区分

第12条 判定の確認

第13条 判定の連携

第14条 再判定

ジュニア審判マニュアル

競技規則について

14. 禁止事項

審判規則について

2. アンパイヤーの判定区分

4. 判定の確認と連携

5. プレーヤーから質問があったときは？（再判定）

